

編集後記

▼成寿四十五号お届け致します。

今号のテーマは「相承」。受け継ぎつないでいくこと。善光寺も先代大圓武志大和尚から博志方丈がその遺志を受け継ぎ早や一年が経とうとしています。これも善光寺を支えてくださっている多くの檀信徒の皆さまのおかげ、また善光寺に関わる多くのご縁の方々のおかげです。心より感謝申し上げます。

▼私たちの命も親から受け継ぎ、頂いた命です。親もさらにその親から頂いた命。祖父母にも親があります。このように十代さかのぼると一〇二四の尊い命の上に今の自分の命があるのです。永い時間をかけて今の命がある。その命を無駄にしないように日々を大切につとめたいものです。そして次の世代に何を伝え、残していくべきか考えて参りましょう。

▼先代方丈の『二十一世紀の使命』。

十五年前、二十一世紀を迎えるにあたっての文章です。百年先を見据えた人づくり、寺づくり。何世代を通して変わらないものをしっかりとつなげて行く使命。先代方

丈の篤いエネルギーが伝わってくる感じが致します。

▼会者定離。鳥居秀行総代がご逝去されました。日野の地にて寺を開創して以来永い間大変お世話になりました。親方、ありがとうございます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

▼節分会。(株)板橋様に舞台を設置して頂き旭秀鵬関による豆まき。巨体による盛大な鬼払いでした。来年は趣向を変えて『笑う門には福来る』をテーマに予定しております。

▼医食同源。食べ物は明日の命を育みます。旬の食材を程よく食べ身体と心の健康に努めましょう。『四季の養生訓』としてやすらぎの郷にご縁のある薬剤師の井上裕之先生に執筆頂きました。

▼今年も各地で自然災害が多く発生しました。九月の豪雨、鬼怒川の決壊は驚愕でした。備えあれば憂いなしとは申せ、天災は何時・何処に起きるか？被災されました方々に衷心より御見舞い申し上げますと共に一日も早い復興を祈念致します。東日本大震災復興支援共々赤十字を通して皆様の真心で頂いた貴重な維持会費の一部を寄附させて頂きました。

▼ラクビー・ワールドカップ。にわかファ

ンとして盛り上がりました。初戦の強豪・南アフリカ戦。終了間際、確実に引き分け狙いのキックではなく、あくまで逆転のトライを選んだ選手たちの意志の強さ、そしてそれを裏付けるだけの練習量。練習は嘘をつかない。大切なのは日々の積み重ね。『この一当は百不当の一老なり』あきらめないで継続する事の大切さ。また五郎丸選手のキック前のルーティン(習慣動作)も話題になりました。精神集中のルーティン。私達仏教徒のルーティンは合掌であり坐禅でありますよね。調った姿勢、丁寧な呼吸から精神(心の落ち着き)への働きかけ。

▼来年は京都清水寺参拝旅行を計画しています。皆さまお誘い合わせの上どうぞご参加下さい。

成寿 第四十五巻

平成二十七年十二月十日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野中央二丁目

十二番九号

電話 〇四五(八四五)二三七一

FAX 〇四五(八四六)二〇〇〇

印刷所 (株)中外日報社